

## 第1回栃木県広域サイクルツーリズム推進協議会 議事概要

- 1 日時 令和6(2024)年2月28日(水) 午前10時00分～午前11時40分
- 2 場所 オンラインによるWEB会議
- 3 出席者 別紙「出席者名簿」のとおり
- 4 議事
  - (1) 連携ルートの決定について
  - (2) モデルルートを活用した取組について
- 5 結果概要 連携ルートについて、事務局案のとおり決定した。
- 6 委員からの主な意見、質疑等
  - (1) 連携ルートの決定について
    - 篠原委員(座長)

全国の事例を見ると成功事例ばかりではない。ルート・矢羽根等を整備して終わり、というパターンも多く見受けられる。各市町や学識経験者を含めて合意形成をした上で進めることはできているか。
    - 事務局

連携ルートの検討過程において、素案への意見聴取や試走会への参加といったかたちで各市町にご参加いただき、事務局案を作成した。作って終わりではなく、連携ルートを活用して自転車活用の機運を更に盛り上げていきたい。本協議会ではカバーしきれない部分もあるので、スポーツツーリズムも絡めながら今後の在り方を検討していければと思う。なお、今年度から観光マップの中にも4つのルートを掲載している。観光分野とも連携しつつ、自転車活用を盛り上げていくためにも積極的に周知していきたい。
    - 篠原委員(座長)

市内・市町との連携が取れているかがポイントとなる。県には、道路関係だけでなく観光振興、地域振興部門との連携をしながら、引き続き努力をお願いしたい。
  - (2) モデルルートを活用した取組について

- 事務局

県内における令和5年のモデルルートの活用状況について調査を行ったところ、県と市町で22件の事例について回答があった。事務局としては、イベントがなくてもサイクリングをしに来る人を呼び込めるような活用の形式に展開させていく必要があると受け止めており、委員の皆様におかれては、どのような観点でターゲットを絞って取組を企画しているのか、どのような仕掛けで地域の事業者をモデルルートに参入させているのかご意見をいただければと思う。

- 柿沼委員

弊社ではルート NIKKO を活用して、協賛企業の福利厚生事業としてミニツアーを開催した。自転車に馴染みのない人を想定し、大谷地区の観光を、自転車を使って行うものである。また、宇都宮市の若山農場へ訪問するツアーも実施したが、この際、栃木県には4つのサイクルルートがあるという情報も紹介し、栃木県での取り組みも伝えている。

道路には自転車用のレーンが濃い青色で引かれていて、ドライバーが見ても分かるようになっている。こうしたところからも、県外の方へ自転車活用の機運は伝わると感じている。今回連携ルートができ、ルート同士の関係が分かりやすくなったので、民間や市町行政には企画をどんどん作っていただきたい。

- 篠原委員（座長）

柿沼委員から、民間らしい地に足のついた企画を紹介していただいた。県においては、そのような民間のサポートとなるように、業務委託をしていく等の事業を展開していければ良いのではないかと感じた。

- 高根沢委員

那須高原ロングライドは参加者、地域、行政・実行委員会の3者が皆メリットを享受すること重要視し企画をしており、10年以上継続して開催することができている。その方向性に基づいて新たに自転車を活用した那須野が原の新しい観光コンテンツ「日本遺産「那須野が原」浪漫譚サイクリングツアー」を企画したが、申込みが催行人数を満たさず実施できなかった。ターゲットとなる顧客層をどう設定するのか、参加意識の分析が重要になるほか、自走化を見据え関係団体の協力を得ることが課題であると感じている。

- 篠原委員（座長）

10年のノウハウをベースに分かりやすく紹介していただいた。県においても参加者、地域、行政の3者の関係を意識した上で、民間を支援していくことが良いと考え

ている。事務局から何か感想はあるか。

- 事務局

栃木の魅力が満載の事例で大変勉強になった。民間の企画を積極的に周知し、いかに連携・協力、発展させられるかが県の役目だと感じている。

- 篠原委員（座長）

サイクルルート活用に係る企画を観光の部署に繋げて、集客を増やすことが大切な役割になる。

- 高根沢委員

行政からの人的支援や県警の協力により、那須ロングライドは補助金なしで10回以上続けて行うことができた。地域連携で「みんながみんなのために」できると良い。

- 柿沼委員

個人的に、栃木県は市町におけるサイクル関係の事業実施数は全国上位クラスなのではないかと思っている。ツーリズムというと、県外からの参加者を想定しがちだが、地元の盛り上がりが不可欠で、地元が盛り上がっているからこそ、県外からも訪れたい、というのがあるのだと思う。いくつかの事例を紹介していけば、自分たちもできると考える民間団体が増えていくのではないか。

- 篠原委員（座長）

柿沼委員と高根沢委員の取組を聞いて、何か御意見などあるか。

- 荻原委員代理：（公社）栃木県観光物産協会 石川 課長代理

情報発信のお手伝いをしっかり実施していきたい。各市町から積極的に情報を収集し、発信していきたいと考える。

- 大澤委員代理：交通規制課 鈴木 課長補佐

交通管理を通して、今後ともサイクリング時の安全・安心を支えていきたい。

- 船木委員代理：地域振興課 鈴木 主任

地域づくり支援の観点から、地域の取り組みに対する市町への補助等をとおして、自転車活用を支えていきたい。

- 辻本委員

JTBの強みはお客様とのつながりである。一過性で終わってしまうイベントだけでなく、定期的な利活用の商品も設定していきたい。魅力的な旅行商品としての差別化が必要なので、そこをどうするか考えていきたい。

- 大森委員

連携ルートは試走も実施した上での作成であり、適切なルートを選んでもらったと考えている。今年度、県総合政策課と連携して地域資源の調査研究を行ったので、様々な地域資源と併せてサイクルルートの魅力を伝えていきたい。情報発信の際には、サイクリストはもちろん、歩行者やドライバーにも案内が必要と感じた。

- 藤村委員

健康作りという観点から感想を述べさせていただく。健康づくりは楽しくないと続かないので、事例を参考に、楽しく自転車とグルメ・観光を繋げ、活用してほしい。

- 池田委員

連携ルートの整備は実にありがたい。私も実際に走ったが良いものであると感じている。一方で、県内にあるサイクルルートについてサイクリストに認知されていないと感じる。案内看板等についても相当整備されているものの、関係者以外に認知されていないようである。栃木県としても、しまなみ海道やビワイチのような、仕掛けをしてほしい。

- 篠原委員（座長）

ワンチームで取組を進め、盛り上げていくことが大切である。

## 第1回栃木県広域サイクルツーリズム推進協議会 出席者名簿

	種別	所属・職	氏名	出欠	備考
1	学識者	跡見学園女子大学観光コミュニティ学部 准教授	篠原 靖	出席	
2		宇都宮大学地域デザイン科学部 教授	大森 宣暁	出席	
3		作新学院大学女子短期大学部 准教授	藤村 透子	出席	
4	観光事業者	(株)JTB宇都宮支店 営業課長	辻本 裕之	出席	
5		(公社)栃木県観光物産協会 会長	荻原 正寿	欠席	代理出席 (公社) 栃木県観光物産協会 観光課 課長代理 石川隆
6		(株)栃木プロジェクトプロ 代表取締役会長 那須高原オールスポーツアソシエーション 会長	高根沢 武一	出席	
7	有識者	サイクルスポーツマネジメント(株) 代表取締役社長	柿沼 章	出席	
8		NASPO(株) 代表取締役	若杉 厚仁	欠席	
9		栃木県サイクリング協会 理事長	池田 宰	出席	
10	交通管理者	栃木県警察本部交通部交通規制課 課長	大澤 賢吾	欠席	代理出席 交通規制課 課長補佐 鈴木克範
11	道路管理者	栃木県県土整備部交通政策課 課長	横尾 元央	欠席	代理出席 交通政策課 課長補佐(総括) 原田和彦
12	道路管理者	栃木県県土整備部道路保全課 課長	石崎 浩	欠席	代理出席 道路保全課 課長補佐(総括) 町田浩章
13	庁内関係課	栃木県総合政策部地域振興課	船木 優子	欠席	代理出席 地域振興課 主任 鈴木陽
14		栃木県環境森林部自然環境課 課長	柿沼 章洋	欠席	
15		栃木県産業労働観光部観光交流課 課長	小池 由紀	欠席	